

令和2年度指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

令和3年7月2日
農林水産局

1 要旨

指定管理者制度を導入している次の施設について、管理運営状況を報告する。

2 対象施設

施設名	指定管理者	ページ番号
広島県栽培漁業センター	(一社) 広島県栽培漁業協会	2
広島県緑化センター・広島県立 広島緑化植物公園 (ひろしま遊 学の森)	ひろしま遊学の森管理グループ	5

令和2年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

水産課

1 施設の概要等

施設名	広島県栽培漁業センター		
所在地	竹原市高崎町字西大乘新開 185 番地の 12		
設置目的	魚介類の種苗生産, 配布等による栽培漁業の振興		
施設・設備	管理棟, 貝類棟, 飼育棟(50t×16 水槽), 新魚種種苗生産棟(50t×8 水槽)等		
指定管理者	4 期目	H28. 4. 1~R3. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	3 期目	H23. 4. 1~H28. 3. 31	(一社) 広島県栽培漁業協会
	2 期目	H20. 4. 1~H23. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会
	1 期目	H17. 4. 1~H20. 3. 31	(社) 広島県栽培漁業協会

※平成 25 年 4 月 1 日から一般社団法人に移行。

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	種苗生産尾数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4 期	R2		9,801 千尾 (1,500 千枚)	9,352 千尾 (1,456 千枚)	△276 千尾 (17 千枚)
R1			10,058 千尾 (1,500 千枚)	9,628 千尾 (1,439 千枚)	96 千尾 (△83 千枚)	△430 千尾 (94.5%) (△61 千枚 (95.9%))
H30			9,478 千尾 (1,500 千枚)	9,532 千尾 (1,522 千枚)	227 千尾 (254 千枚)	54 千尾 (100.6%) (22 千枚 (101.5%))
H29			9,265 千尾 (1,500 千枚)	9,305 千尾 (1,268 千枚)	△612 千尾 (△267 千枚)	40 千尾 (100.4%) (△232 千枚 (84.5%))
H28			9,148 千尾 (1,500 千枚)	9,917 千尾 (1,535 千枚)	1,090 千尾 (6 千枚)	769 千尾 (108.4%) (35 千枚 (102.3%))
	3 期平均 H23~H27		8,624 千尾	8,827 千尾	△2,973 千尾	203 千尾 (102.4%)
	2 期平均 H20~H22		11,343 千尾	11,800 千尾	△1,099 千尾	457 千尾 (104.0%)
	1 期平均 H17~H19		12,622 千尾	12,899 千尾	△1,862 千尾	277 千尾 (102.2%)
	H16 (導入前)		13,790 千尾	14,761 千尾	—	—
増減理由	○漁業者の需要を反映した生産尾数とするため事業計画を毎年度立てている。 ○種苗生産尾数については、一部の魚種で目標を下回る生産となったが、目標を上回る生産魚種もあり、計画数量をほぼ達成できた。					

※第 4 期の () 内は三倍体カキ (かき小町) 生産枚数 (内数)。

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	種苗生産配布検討会を開催して、漁業者のニーズ等を把握	(公財) 広島県漁業振興基金, 広島県漁業協同組合連合会, 広島県内水面漁業協同組合連合会
	【主な意見】	【その対応状況】
	健苗の生産	飼育環境及び餌料系列の変更による健苗生産
	遊漁に適したアユの生産	遊漁に適した人工種苗の研究
生残率の向上	飼育密度や飼育方法の工夫	
キジハタの生産と配布	安定した量産技術の開発	

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 事業報告書
	日報 (必要随時)	○ 水産種苗調査 (報告書)
管理運営会議 (現地, 県庁等)	【特記事項等】 施設の修繕箇所を確認し課題を整理した。 【指定管理者の意見】 修繕の実施中においても、効率的な種苗生産に取り組めるよう配慮を求める。	
現地調査 (随時 水産種苗調査及び 3 月に実施)	【県の対応】 修繕工事契約に指定管理者の意見を踏まえた内容及び工程を設定した。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
県委託料 (決算額)	4期	R2	87,049	△2,077	種苗頒布 収入 (決算額)	4期	R2	207,448	6,808
		R1	89,126	518			R1	200,640	902
		H30	88,608	△628			H30	199,738	14,467
		H29	89,236	△2,702			H29	185,271	△16,746
		H28	91,938	△1,208			H28	202,017	59,607
	3期平均 H23～H27		93,146	△31,840		3期平均 H23～H27		142,410	48,448
	2期平均 H20～H22		124,986	△5,672		2期平均 H20～H22		93,962	16,612
	1期平均 H17～H19		130,658	△21,574		1期平均 H17～H19		77,350	15,328
H16 (導入前)		152,232	—	H16 (導入前)		62,022	—		

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項 目		R2 決算額	R1 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	87,049	89,126	△2,077	人件費の減
		種苗頒布収入	207,448	200,640	6,808	重点魚種種苗増産業務委託費の増
		その他収入	10,965	8,990	1,975	漁業団体からの受注の増
		計(A)	305,462	298,756	6,706	
	支出	人件費	130,497	132,015	△1,518	職員の配置換えによる減
		光熱水費	4,886	4,967	△81	
		設備等保守点検費	16,459	16,325	134	海水供給施設等保守費等の増
		清掃・警備費等	660	654	6	
		施設維持修繕費	9,385	6,967	2,418	施設修繕費の増
		事務局費	398	378	20	
		種苗生産経費	143,132	136,405	6,727	重点魚種種苗増産業務による増
		その他	45	1,045	△1,000	生産安定化準備資金の減
	計(B)	305,462	298,756	6,706		
		収支①(A-B)	0	0		
	自主事業 (※)	収入(C)	0	0		
支出(D)		0	0			
収支②(C-D)		0	0			
合計収支(①+②)		0	0			

※ 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の設置目的に沿った業務実績 ○業務の実施による, 県民サービスの向上 ○業務の実施による, 施設の利用促進 ○施設の維持管理 	<p>漁業者ニーズ等の把握に努め, 広島県種苗生産・配布要領に基づき, 令和2年度の生産魚種, 尾数, 単価等を決定し, それに基づき, 種苗生産を行った。</p> <p>魚類については, 計画数量以上の生産ができたものについて, 余剰種苗として積極的に販売した。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により令和2年度は見学の受け入れは中止したが, 水産教室への種苗の提供は行った。また, 見学者用に歩行路を確保している。</p> <p>施設が老朽化する中, 安定的な種苗生産を維持するため, 生産設備等の点検, 修繕を実施した。</p>	<p>生産尾数は, 種苗生産配布検討会を開催するなど, 漁業者ニーズの把握を行い, ガザミ等に対する漁業者の大型種苗ニーズを反映した種苗生産を実施している。</p> <p>魚類では, 余剰種苗の積極的な配布により, 栽培漁業の推進に貢献している。</p> <p>新型コロナウイルスの影響もあり, 一般見学は中止したものの種苗の提供等, 栽培漁業及び地域振興に寄与し, 県民サービスの向上に努めている。見学者のために施設の安全確保に努めている。</p> <p>適宜, 生産設備の修繕を行い, 安定的な種苗生産の実現に尽力している。</p>
管理の人的物的基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の見直し ○効率的な業務運営 ○収支の適正 	<p>全職員が種苗生産, 施設の修繕・整備, 販売促進等すべての業務を担当できるように, オールラウンド型事務局体制の構築に努めた。</p> <p>種苗生産業務の時期的人役の的確な把握により, 労務時間の短縮を図った。</p>	<p>職員等の配置換えを行い, 種苗生産業務及び施設管理業務について効率的な体制となっている。</p>
総括		<p>各職員が業務の見直し, 業務の品質向上及び利用者ニーズの把握を行い, 運営への反映に取り組んだ。</p> <p>当該施設の現状を再確認し, 県とともに種苗生産能力を確保するため, 老朽化している施設・生産設備の維持・管理に取り組んだ。</p>	<p>種苗生産目標に向け, 漁業者からの要望にも応えた運営を実施している。</p> <p>種苗生産については, 試験研究機関とも連携し, 生産改善に努め, 安定生産に取り組んでいる。</p> <p>栽培漁業について, 漁業者及び他機関と連携した取組を推進している。</p>

8 今後の方向性 (課題と対応)

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○三倍体マガキ幼生の付着率向上に取り組む。 ○生産魚種の安定生産に向けた親魚養成技術や中間育成技術の確立に取り組む。 ○令和3年度も, 重点魚種(ガザミ・カサゴ・オニオコゼ・キジハタ)の増産に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生産の効率化を図るための施設整備を実施する。 ○放流後の生残率の向上に向け, 各魚種に応じた運搬方法や放流場所, 放流手法の指導を行う。 ○キジハタの量産化や遊漁に適したアユの人工種苗生産に対し協力等を行う。
中期的な対応	<p>安定的な種苗生産を実施するため, 施設の機能強化により, 効率的な生産を進める。</p>	<p>第8次栽培漁業基本計画を策定し, アクションプログラムの実現に向け, 計画的に施設の改修・修繕を実施する。</p>

令和2年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

森林保全課

1 施設の概要等

施設名	広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園（ひろしま遊学の森）		
所在地	広島市東区福田町 10166-2		
設置目的	○緑化に関する知識及び技術の普及 ○緑化の推進		
施設・設備	面積 124.97ha, 管理事務所・展示館等(4棟), 遊歩道(12,000m), 駐車場(474台)等		
指定管理者	5期目	H29.4.1～R4.3.31	ひろしまの遊学の森管理グループ
	4期目	H28.4.1～H29.3.31	みずえ緑地(株)
	3期目	H23.4.1～H28.3.31	みずえ緑地(株)
	2期目	H20.4.1～H23.3.31	みずえ緑地(株)
	1期目	H17.4.1～H20.3.31	みずえ緑地(株)

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5期	R2		98,000人	114,163人	12,770人
R1			98,000人	101,393人	17,906人	3,393人(103.5%)
H30			98,000人	83,487人	△10,904人	△14,513人(85.2%)
H29			98,000人	94,391人	1,056人	△3,609人(96.3%)
4期	H28		96,870人	93,335人	△4,195人	△3,535人(96.3%)
3期平均	H23～H27		96,870人	97,530人	△1,175人	660人(100.7%)
2期平均	H20～H22		93,900人	98,705人	4,769人	4,805人(105.1%)
1期平均	H17～H19		93,600人	93,936人	12,513人	336人(100.4%)
	H16(導入前)		—	81,423人	—	—
増減理由	○コロナ禍における野外施設利用の需要の高まりに伴う増 ○遊具の設置や植物展示の充実, 広島市森林公園との共催イベント開催等による増					

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	利用者へのアンケート調査	施設利用者・研修会参加者等 704人
	【主な意見】	【その対応状況】
	あまり知られていないと感じる。PR不足ではないか。 園内の道順が分かりにくいので看板を増やしてほしい。	HPやSNSを活用しPRに努めている。R2年度はインスタグラム上で写真コンテストを開催した。 西ゲートに案内板を設置したほか、R3年度に園内標識を設置する予定。

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次業務報告書
	日報(必要随時)	○	施設の老朽・損傷状況等
管理運営会議(3回・現地)	【特記事項等】 施設の利用状況や広島市森林公園(以下,市森林公園と略す)との連携についての報告と意見交換を行った。		
現地調査(2か月毎に実施)	【指定管理者の意見】 利用者ニーズに対応した既存設備の有効活用による県民サービスの向上と利用の促進,および市森林公園との連携に努める。 【県の対応】 指定管理者の設備の有効活用と市森林公園との連携の取組を支援する。		

5 県委託料の状況

(単位：千円)

県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金 収入 (決算額)	年度	金額	対前年度増減
	5期							
		R2	61,176	0	—	—	—	—
		R1	61,176	1,176				
		H30	60,000	0				
		H29	60,000	3,430				
	4期	28	56,570	820				
	3期平均 H23～H27		55,750	2,500				
	2期平均 H20～H22		53,250	△3,210				
	1期平均 H17～H19		56,460	△5,794				
	H16 (導入前)		62,254	—				

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R2 決算額	R1 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	61,176	61,176	0	
		料金収入	0	0	0	
		その他収入	0	0	0	
		計(A)	61,176	61,176	0	
	支出	人件費	26,862	30,493	▲ 3,631	引継の終了に伴う職員の減
		光熱水費	1,636	1,905	▲ 269	4, 5月のレストハウス臨時休業による減
		設備等保守点検費 清掃・警備費等	7,333	6,789	544	駐車場警備費用の増
		施設維持修繕費	4,805	3,085	1,720	修繕箇所の増
		緑地管理費 等	10,958	9,838	1,120	植物展示の増による労務費の増
		事務局費	5,216	4,815	401	需用費の増
		その他	4,382	4,258	124	保険料の増
	計(B)	61,192	61,183	9		
		収支①(A-B)	▲ 16	▲ 7	▲ 9	
自主事業 (※)	収入(C)	0	0	0		
	支出(D)	0	0	0		
	収支②(C-D)	0	0	0		
合計収支(①+②)		▲ 16	▲ 7	▲ 9		

※自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者	県の評価
施設の効用発揮	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の設置目的に沿った業務実績 ○業務の実施による、県民サービスの向上 ○業務の実施による、施設の利用促進 ○施設の維持管理 	<p>R1年度に続き、湿地植物園やレストハウス周辺の植栽を行ったほか、宝くじ桜の苗木の寄贈や公的な助成金等を利用した植栽を行い、園内の植物展示を充実させた。R2年度は全国都市緑化ひろしまフェアにも参加し、スポットイベントを3つ開催して利用者が植物に親しんでもらえるよう努めた。</p> <p>また、多目的広場内にブランコを、苗畑内にカブトムシ生育用のハウスを設置し、低年齢層にも親しみやすい施設づくりに努めた。</p> <p>市森林公園との連携については、R1年度までの取組に加えて共催によるピクニックウォークを新たに開催し、ひろしま遊学の森管理グループとしての連携を強化した。</p> <p>これらの取組の結果、R2年度の利用者数は過去最多を記録した。</p> <p>利用者の安全面については、従来の施設点検マニュアルに基づく点検と要整備箇所の修繕の実施に加え、新型コロナウイルス感染防止対策を行った。</p> <p>また、倒木危険性について、延べ26千本の園内樹木に対し、樹木調査を実施した。</p>	<p>期を通して施設のメインである植物展示の充実に取り組まれているほか、全国イベントにも積極的に参加されるなど、施設の設置目的である「緑化の推進」に沿った利用促進が図られている。植栽にあたっては苗木の寄贈や助成金を活用するなど、経費節減も意識されている。</p> <p>また、従来のリピーターに加え、親子連れの利用客が増えてきた流れを適切に捉えた施設づくりがなされている。</p> <p>市森林公園との連携では、新規の共催イベントを立ち上げるなど一体的な運営体制がより強化されており、これらの取組の結果が利用者増に繋がっている。</p> <p>利用者の安全面については、施設点検マニュアルに基づく点検結果や要整備箇所の修繕に加えて、新型コロナウイルス感染防止対策がきめ細かに実施されている。</p> <p>また、倒木による事故リスクに配慮し、専門的知識に基づいた樹木点検が適切に実施されている。</p>
	管理の人的物的基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の見直し ○効率的な業務運営 ○収支の適正 	<p>警備業務等の再委託業務については、市森林公園と同一業者に発注し、業務の効率化および経費節減に努めている。</p> <p>収支報告については、支出関係書類等に基づき、適正に行っている。</p>
総括		<p>市森林公園と一体管理を行う4年目として、さらなる県市連携の強化に取り組むとともに、利用者数等の目標値を達成すべく尽力した。</p> <p>また、今夏頃から新型コロナウイルス感染リスクが低い屋外公園への利用需要が高まったことを受け、公園利用需要の受け皿としての機能を果たしつつ、感染拡大防止対策を徹底した運営を行った。</p>	<p>市森林公園との連携の取組や、施設の設置目的に沿った植物展示の充実、利用者ニーズを捉えた施設整備が行われており、これらの結果が利用者数の増に繋がっている。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染防止対策については、国県の示した基準により適切な措置が講じられており、利用者の安全にも配慮されている。</p>

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○市森林公園との一体的な運営管理による活性化と課題の抽出および対応 ○新型コロナウイルス感染拡大防止策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○市森林公園との一体管理の課題および効果の検証 ○危険木処理や老朽化施設の修繕実施
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者増に向けた魅力ある施設づくり ○施設の適切な維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○検証結果を踏まえた集客増に向けた取組や効果的な施設運営 ○老朽化施設の計画的修繕